

城を守りける人々戦時人なる最法なるを又あし
義光公怒り給へ早々雌雄を決せしむるに五百騎荒
多を入野之責戦ふ鉄阿彌坊是を見て方將く見物
あむとて長サ九尺重藤の大弓に十二指なる大黒の
矢を肩ひ長サ七寸に余る馬に市宗進と出て大音にて
佛向寺塔頭長松院鉄阿彌字今武藏坊とて惡
僧此名をとりける某と勝負を決せんと思ふ者姓名承り
此綱廣う打ふる鐵を一つ余らせんと憎氣にぞ呼りける
かる所より黒鎧なる武者運き馬に打寄り大の山伏
谷をわたり進み出て棄てず及くる今武藏坊にてましか
か

某羽黒山院結の中を惡僧の名を得たる鉄石坊より惡
僧の曹大和師治りきたるもの之貴僧の弓勢試え弦並
弦通し射られし仁王立より鉄阿彌是を穿いさ面
白く仕ると矢の弓に大の筋前を打はるに將くかきめて切て放
きゆきまに鉄石坊に弦並れ通し血煙り立て後方に扣へ
し梶原景五郎首の骨まで射通しける城兵共櫓の窓門
に扉をたき射りやくと將く將りもやまざりける長松院
氣を得て差詰り詰め散くる射れは矢より數十人
射落し寄手是を見て此入道の箭先より鉄の楯をも
叶ふまじと引退く鉄阿彌櫓に登り見渡さ二陣を覺